



# 環境報告書 2024

(2023 年度実績)



## 株式会社 駒井ハルテック







## 目次

|                                   |    |
|-----------------------------------|----|
| <b>会社方針</b>                       | 1  |
| ● トップメッセージ                        | 1  |
| ● 経営理念                            | 2  |
| ● 環境・品質方針                         | 2  |
| <b>目標と戦略</b>                      | 3  |
| ● サステナビリティ基本方針とマテリアリティ            | 4  |
| ● 中期経営計画 2023 見直し計画               | 5  |
| ● 環境マネジメントシステム                    | 6  |
| <b>気候変動への取り組み</b>                 | 9  |
| ● 気候変動への取組                        | 10 |
| ● 再生可能エネルギーの普及に向けた取組 ～ 環境インフラ本部 ～ | 12 |
| ● 再生可能エネルギー発電事業                   | 15 |
| ● 温室効果ガス排出量の算出と削減                 | 17 |
| <b>環境活動報告</b>                     | 19 |
| ● 環境との調和                          | 20 |
| ● 橋梁建設(架設)現場での環境に対する取組            | 25 |
| ● 温室効果ガス排出量と使用エネルギー量の推移           | 30 |
| ● 環境製品への取組(実績紹介)                  | 31 |
| ● 主要事業所(サイト)における環境マネジメントシステムへの取組  | 32 |
| <b>会社概要</b>                       | 37 |
| ● 会社概要                            | 38 |



富津工場



和歌山工場

※表紙写真：三浦宮川風力発電所





🌐 『中期経営計画 2023』2年目、一人一人が利益を追求する変革の当事者たれ！

2023年度のわが国経済は、物価高に加え能登半島地震などにより一時的にマイナス成長となりましたが、引き続き好調な設備投資とインバウンド消費に加えて個人消費も持ち直し、緩やかな回復基調で推移しました。

一方、物流、建設業界の時間外労働時間の上限規制、日銀による金融政策の修正、中国景気や米国大統領選、ウクライナ問題、イスラエルとハマスの衝突の長期化など、不確定要素も多く、国内経済の減速が懸念されます。

このような事業環境の中、2023年度の連結売上高は総額 553 億円と前年度を約 4 割上回る大幅増収となりましたが、営業利益は 7 億円に留まりました。

2024年度は『中期経営計画 2023』の 2年目となりますが、鋼橋の発注量の低迷、都内高層ビル案件の見直しや延期、資材・人件費等の高騰などの外部環境の大きな変化に加え、当社グループの収益力向上が遅れていることなどにより、中期経営計画を見直すことといたしました。修正後の中期経営計画は「飛躍的業績向上」から「経営体質強化」へ軸足を移行することにより目標営業利益を 50 億円から 18 億円と大幅に下方修正いたします。しかしながら、成長戦略は緩めず、成長投資を当初計画比 30 億円増の 110 億円とし、成長が見込まれる洋上風車タワー製造ラインの整備、陸上風車製造ラインの拡張を進めるとともに、主力事業である橋梁と鉄骨の工場改革に投資することといたします。

安全、品質はもとより、従業員一人一人が利益を追求する変革の当事者となり、利益を確保することにより、新たな投資へと繋げてまいります。

また、サステナビリティ委員会では4つの基本方針と7つのマテリアリティ(重要課題)を特定しました。基本方針の一つとして「地球環境の保全に取り組み、将来世代へ希望を繋ぎます。」を掲げ、マテリアリティの一つとして「カーボンニュートラル社会の実現」を定めて、2030年にはCO<sub>2</sub>排出量46%削減、2050年にはカーボンニュートラルを目指してまいります。

現在、環境関連施設として、富津工場・加工棟の屋根を活用したソーラーパネルを設置し、2023年度は2,541千kWhの電力を発電、また、富津工場の2基の陸上風車(出力300kW/基)により672千kWh、三浦半島に設置した2基の陸上風車により1,135千kWhの電力を発電しています。

今後も再生可能エネルギーを主とした環境事業を伸ばすことにより「社会に貢献する企業」として企業価値の向上を図ってまいります。

取締役社長 中村 責任





## 経営理念

『高い技術力で 夢のある社会づくりに貢献する』



## 環境・品質方針



### 基本理念

当社は、「高い技術力で、夢のある社会づくりに貢献する」との経営理念の下、以下の活動を通して社会的責任を果たす。

当社は、国民の生活基盤となる橋梁、鉄骨、風車などの製造、建設事業を通じて社会資本の整備に貢献しつつ、生産、建設過程における使用エネルギーや排出物(CO<sub>2</sub>、産業廃棄物など)等の環境負荷要因の低減に取り組む。



### 方 針

1. 環境・品質マネジメントシステムの実効性を高める。
2. 「顧客満足」をいただける製品の提供とサービス向上に努める。
3. 環境負荷低減を目指した企業活動を展開する。
4. コンプライアンスおよび内部統制システムの成熟に努め、責任ある企業活動を展開する。



## 目標と戦略





# サステナビリティ基本方針とマテリアリティ



## サステナビリティ基本方針

経営理念の下、「持続可能な社会の実現」と「企業の持続的成長」を両立させるサステナビリティ経営に取り組み、中長期的な企業価値向上を実現させるために、その基本方針を以下のように定めています。

- 地球と社会に貢献する企業を目指します。
1. 地球環境の保全に取り組み、将来世代へ希望を繋ぎます。
  2. 社会インフラを提供し、安全で安心な生活を支えます。
  3. 人財と技術を礎に、社会課題の解決に取り組みます。
  4. 高い企業倫理と企業統治により、透明公正を確保します。



## マテリアリティ

サステナビリティ基本方針に基づき、7つのマテリアリティを特定しています。

|                                     |   |   |   |
|-------------------------------------|---|---|---|
| <p><u>1. カーボンニュートラル社会の実現</u></p>    | <p>7 エネルギーをみんなに<br/>そしてクリーンに</p>  | <p>9 産業と技術革新の<br/>基盤をつくらう</p>  | <p>13 気候変動に<br/>具体的な対策を</p>  |
| <p><u>2. 自然災害への対応強化</u></p>         | <p>11 住み続けられる<br/>まちづくりを</p>      | <p>13 気候変動に<br/>具体的な対策を</p>    |   |
| <p><u>3. 安全安心の社会インフラづくり</u></p>     | <p>11 住み続けられる<br/>まちづくりを</p>      |   |   |
| <p><u>4. 新技術開発</u></p>              | <p>9 産業と技術革新の<br/>基盤をつくらう</p>     |   |   |
| <p><u>5. 人財開発</u></p>               | <p>4 質の高い教育を<br/>みんなに</p>         | <p>5 ジェンダー平等を<br/>実現しよう</p>    | <p>8 働きがいも<br/>経済成長も</p>     |
| <p><u>6. 労働安全衛生の確保</u></p>          | <p>3 すべての人に<br/>健康と福祉を</p>        | <p>8 働きがいも<br/>経済成長も</p>       |   |
| <p><u>7. 企業活動における透明性と公正性の確保</u></p> | <p>16 平和と公正を<br/>すべての人に</p>       |   |   |



## 中期経営計画 2023 見直し計画



### 基本方針・基本戦略

#### 基本方針

『技術力とブランド力』に磨きをかけ、社会の発展に貢献する

新技術の開発と DX の推進により、新たな事業モデルと市場の開拓に取り組む

収益志向を高め、経営体制の強化を通じて企業価値向上を図る

#### 基本戦略

経営資源の最大活用を見据えた受注活動を展開すると共に、市場動向を適切に捉え、全社的事業価値を高めしていく

風車ビジネスの先駆者として、新たな領域となる「洋上風車タワー」の製造にチャレンジし、カーボンニュートラル社会の実現に貢献する

安全と品質を徹底し、生産体制を整備のうえ、モノづくり改革に取り組み、大型インフラ事業での貢献を通じ収益を極大化する

サステナビリティ経営の本質を従業員が理解し、マテリアリティの実践を通じて、強固な内部管理体制と揺るぎない事業基盤を構築する

技術力の源泉となる人的資本への取り組みを強化し、働き方改革を通じて、人財の活性化を図る

ガバナンスの強化、情報発信の質的かつ量的な充実を図り、株主、取引先をはじめとするステークホルダーとの関係性を高める



### 売上高、利益計画(連結)

(単位：百万円)

|                                  | 2023年3月期 実績 | 2024年3月期 実績 | 2026年3月期 修正目標   |
|----------------------------------|-------------|-------------|-----------------|
| 売上高                              | 39,727      | 55,384      | 43,000          |
| 橋梁事業                             | 14,495      | 20,478      | 16,000          |
| 鉄骨事業                             | 24,237      | 34,194      | 24,500          |
| インフラ環境事業<br>(再生可能エネルギー・海外インフラ事業) | 454         | 170         | 1,850           |
| その他                              | 539         | 540         | 650             |
| 営業利益                             | 315         | 722         | 1,800           |
| 営業利益率                            | 0.8%        | 1.3%        | 4.2%            |
| 経常利益                             | 481         | 1,305       | 1,700           |
| 親会社株主に帰属する当期純利益                  | 328         | 625         | 1,200           |
| (新規事業開発費)                        |             |             | (1,400)         |
| 上記を除く営業利益(利益率)                   |             |             | 3,200<br>(7.4%) |

◆2024年8月に中期経営計画2023の見直しを行いました。詳細は当社HPのIR情報より、

[「中期経営計画の見直しに関するお知らせ」\(2024/8/9\)](#)をご覧ください。



## 環境マネジメントシステム



### 環境年度目標 (2023 年度)

1. 環境負荷の低減
2. 環境側面管理(サイト環境側面管理表の履行管理)
3. 温室効果ガス排出量の算定(精度向上)と削減検討(TCFD への取り組み)
4. 産業廃棄物排出量の削減目標値設定
5. ごみ減量(リデュース)の目標値設定
6. 地域貢献活動(地域交流、近隣清掃など)



### 会社年度方針 (2023 年度)

『中期経営計画 2023』 初年度、  
一人一人が収益志向を高め、変革を成し遂げる！

1. 技術力、ブランド力を活かした受注獲得
2. 収益体質強化に取り組み、新たな事業モデルと市場の開拓に挑戦する
3. 安全、品質、生産性を徹底追求する
4. 人財、チームワークを通じて企業価値を高める

## 環境年度目標 (2024 年度)

1. 環境負荷の低減
2. 環境側面管理(サイト環境側面管理表の履行管理)
3. 温室効果ガス排出量の算定(精度向上)と削減検討(TCFD への取り組み)
4. 産業廃棄物排出量の削減目標値設定
5. ごみ減量(リデュース)の目標値設定
6. 地域貢献活動(地域交流、近隣清掃など)



## 会社年度方針 (2024 年度)

『一人一人が利益を追求する 変革の当事者たれ！』

1. 技術力、ブランド力を活かした受注獲得
2. モノづくり改革の推進による徹底したコストダウンへの挑戦
3. 安全、品質、生産性を徹底追求
4. 人財、チームワークを通じた企業価値向上





駒井ハルテックグループの

## 気候変動への取り組み





## 気候変動への取組

近年、気候変動への取組は企業において不可欠な、重要な課題の一つと捉えられています。当社でも、社会インフラを担う企業として、災害に強いインフラ設備の構築や橋梁の災害復旧をはじめ、再生可能エネルギー事業等を通じ、持続可能な社会の実現に取り組んでいます。

再生可能エネルギー事業は、2006年に富津工場にプロトタイプ of 風力発電機 KWT300 の 1 号機を設置したのを始めとし、離島や山岳地などの厳しい条件にも対応可能な国産中型風車として台風仕様、寒冷地仕様などのラインアップをそろえてきました。現在はそのスケールアップ機として 1MW 風力発電機も開発中です。

気候変動に対する社内体制としては、2022年2月に、気候変動対策をはじめとしたサステナビリティへの取組を推進し、その統括管理を行うことを目的として、「サステナビリティ委員会」を設置しました。また、2023年5月にはGXリーグ<sup>※1</sup>への参画を、8月にはTCFD<sup>※2</sup>提言に基づく情報開示を行いました。(賛同表明は3月)。

富津工場では、当社の鋼構造物製造の長年の経験に基づく強みを活かし、洋上風車タワー生産設備の構築に取り組んでいます。富津工場の一部をレイアウト変更、新規設備を導入し、溶接技術、非破壊検査技術、塗装技術の開発を行うことで、年間20～30基の供給を目指しています。

今後は、これらの活動を通じて、気候変動による経営リスク・機会の特定と対処、排出量の把握と削減、およびインフラ環境事業成長加速を推し進めることにより、脱炭素社会に貢献していきます。

※1 GXリーグ <https://gx-league.go.jp/>



GX(グリーントランスフォーメーション)に取り組む企業が、同じくGXの取り組みをおこなっている官公庁・大学とともに、経済社会システムの変革や新たな市場をつくるための実践をおこなう場。GXへの挑戦を行う企業が、排出量削減に貢献しつつ、外部から正しく評価され成長できる社会(経済と環境および社会の好循環)を目指す。

※2 TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース) <https://www.fsb-tcfd.org/>



G20の要請を受け、金融安定理事会(FSB)が2015年12月に設立。気候変動によるリスク及び機会が経営に与える財務的影響を評価し、「ガバナンス」「戦略」「リスク管理」「指標と目標」について開示することを推奨する提言を2017年6月に発表。

◎環境をめぐる動きと当社環境事業について

京都議定書発効

2005

当社の主な環境事業

2006

富津工場に風車 1 号機設置



国際再生可能エネルギー機関 (IRENA) 発足

2009

厳しい地形、気象条件を克服した風力発電機「KWT300」の開発を軸に、発電事業として安定した運用を行っています！

2011

環境報告書発行開始

スカイソーラーシステムはハイポール式、ケーブル式の 2 タイプでそれぞれの土地に合わせた最適設計を実施しています！

2014

- 40°C 対応寒冷地仕様風車建設

パリ協定採択

2015

ケーブル式スカイソーラー開発

パリ協定発効

2016

テクニカルセンターにスカイソーラー設置

TCFD 最終報告書公表



2017

2018

台風仕様風車建設



2019

- 50°C 極寒冷地仕様風車建設

日本の NDC (国が決定する貢献) 決定

2021

気象変動問題は、マテリアリティの一つとして、サステナビリティ委員会で議論が行われます！

2022

サステナビリティ委員会発足  
富津工場の屋根にソーラーパネル設置



GX リーグ本格的な活動開始

2023

TCFD 提言に基づく情報開示  
GX リーグへの参画



カーボンニュートラル社会を目指す！

7 エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに



9 産業と技術革新の  
基盤をつくらう



13 気候変動に  
具体的な対策を





再生可能エネルギーの普及に向けた取組 ～ 環境インフラ本部 ～

◎PPA 年次総会出席



太平洋島嶼地域のエネルギーの質向上を目的として活動する Pacific Power Association (PPA) の年次総会(2023年9月25日～28日)に参加し、当社広報のために出展しました。また、総会において、再生可能エネルギーにおける資金調達の課題や当社の台風仕様風力発電機とスカイソーラーシステム(太陽光発電)について、講演を行いました。



◎第23回風力エネルギー利用総合セミナー



2023年6月29日、30日に足利大学で、第23回風力エネルギー利用総合セミナーが開催されました。セミナーでは、風力発電業界における人材育成と、風力発電機メーカーの取り組みについて講演が行われました。当社からは、中型風力発電システム開発の取り組みについて説明を行いました。



◎令和5年度「あきた洋上風力発電関連産業フォーラム」ビジネスセミナー



2024年1月31日に、秋田県が主催する令和5年度「あきた洋上風力発電関連産業フォーラム」ビジネスセミナーが開催されました。洋上風力を含めた秋田県の取り組み紹介、風力発電機メーカーのサプライチェーン形成などについて講演が行われました。当社は、中型風車の開発・導入について説明を行いました。



◎第18回再生可能エネルギー世界展示会&フォーラム

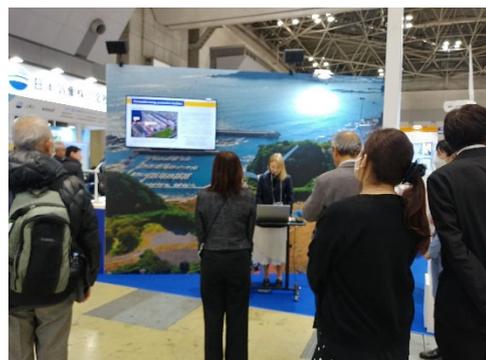
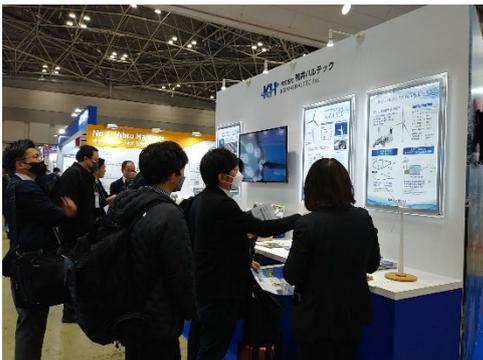


2024年1月31日から2月2日に、第18回再生可能エネルギー世界展示会&フォーラムが東京ビッグサイトで開催されました。わが国全体として2050年に達成しなければならないカーボンニュートラルの取り組みに必要となる、新たなイノベーション情報が共有されました。当社は中型風力発電機 KWT300 の紹介のために初めて出展しました。



◎WIND EXPO 風力発電展

「スマートエネルギーWEEK」の一環として東京ビッグサイトで開催された国際風力発電展に今年も調和工業と共同出展しました。日本の厳しい気象条件や地域条件に対応できる「中型風力発電機 KWT300」の自家消費や地域インフラとしての設置例を始め、ハイポール式の架台上に太陽光パネルが設置可能な「ハイポール式スカイソーラー」等の紹介をしました。また、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)のグリーンイノベーション基金の支援を受け、「洋上風車タワー製作」ラインを構築していくことについても、ホワイトボードアニメーションを使ってわかりやすく来場者の方にPRしました。





### ◎宮古島風況観測

当社が開発した KWT300 台風仕様風力発電機の型式認証を取得するために、宮古島での風車実機による型式試験を計画しています。試験に必要となる現地の風条件を把握するために、高さ 40m の風況ポールを 2 基設置しました。2024 年 3 月現在、風況観測は終了し、風車本体工事に着手しています。7 月頃に建設は完了し、試験開始の予定です。試験により、風車設計の妥当性および安全性を確認します。日本のみならず、大洋州など世界には風のエネルギーに恵まれながら、台風時の強風に耐えられないため風車が導入できない場所がたくさんあります。当社台風仕様風車は、それらの地域での再生可能エネルギーの活用に期待されています。

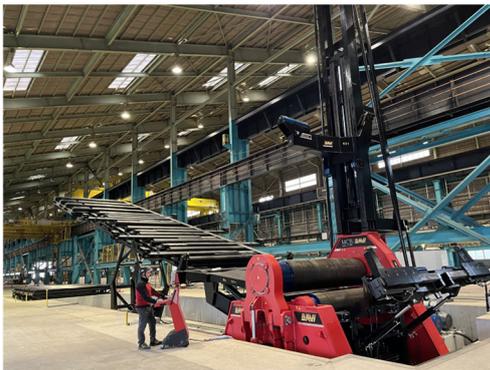
当社が開発した KWT300 台風仕様風力発電機の型式認証を取得するために、宮古島での風車実機による型式試験を計画しています。試験に必要となる現地の風条件を把握するために、高さ 40m の風況ポールを 2 基設置しました。2024 年 3 月現在、風況観測は終了し、風車本体工事に着手しています。7 月頃に建設は完了し、試験開始の予定です。試験により、風車設計の妥当性および安全性を確認します。日本のみならず、大洋州など世界には風のエネルギーに恵まれながら、台風時の強風に耐えられないため風車が導入できない場所がたくさんあります。当社台風仕様風車は、それらの地域での再生可能エネルギーの活用に期待されています。



### ◎洋上風車タワー生産設備の構築

当社富津工場において、洋上風車タワーの高効率生産技術開発・実証事業に取り組んでいます。この事業では、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) のグリーンイノベーション基金事業費助成金を活用しています。合理化溶接技術の開発、ブラスト・塗装ロボット施工システムの開発、AI を活用した非破壊検査システムの開発により、高品質低コストの国産大型洋上風車タワーを提供するとともに、CO<sub>2</sub> の削減を見込んでいます。

当社富津工場において、洋上風車タワーの高効率生産技術開発・実証事業に取り組んでいます。この事業では、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) のグリーンイノベーション基金事業費助成金を活用しています。合理化溶接技術の開発、ブラスト・塗装ロボット施工システムの開発、AI を活用した非破壊検査システムの開発により、高品質低コストの国産大型洋上風車タワーを提供するとともに、CO<sub>2</sub> の削減を見込んでいます。





## 再生可能エネルギー発電事業



### 風力発電



#### ◎富津工場

当社では、設置場所の気象、地形条件等にあった風力発電機の開発・生産に力を注いでおり、当社富津工場内にも2006年9月に1号機を、2014年2月に2号機を設置しています。これらの風力発電機は継続的な研究・開発に資するとともに、生み出された再生可能エネルギーは富津工場における橋梁・鉄骨の生産工程の動力源として利用されています。



富津工場 風車1, 2号機

#### 富津工場における風力発電の概要

|       |                    |         |
|-------|--------------------|---------|
| 設置者   | 株式会社 駒井ハルテック       |         |
| 設置場所  | 千葉県富津市新富(駒井ハルテック内) |         |
| 用途    | 工場用電源 および 売電       |         |
| 風力発電機 | 1号機                | 2号機     |
| 定格出力  | 300kW × 2基         |         |
| 運転風速  | 3 ~ 25m/秒          |         |
| 稼働開始  | 2006年9月            | 2014年2月 |

#### 2023年度 富津工場における風車による発電量

(単位:kWh)

|     | 4月     | 5月     | 6月     | 7月     | 8月     | 9月     | 10月    | 11月    | 12月    | 1月     | 2月     | 3月     | 合計      |
|-----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 1号機 | 60,718 | 24,366 | 25,754 | 42,433 | 28,351 | 32,856 | 25,572 | 32,251 | 10,980 | 38,534 | 33,415 | 43,397 | 398,627 |
| 2号機 | 38,586 | 18,399 | 21,159 | 34,414 | 26,499 | 14,933 | 16,770 | 12,517 | 15,923 | 21,032 | 25,398 | 28,725 | 274,353 |
| 合計  | 99,304 | 42,764 | 46,912 | 76,847 | 54,850 | 47,789 | 42,342 | 44,768 | 26,903 | 59,566 | 58,813 | 72,122 | 672,980 |

※風力による発電量が、富津工場の全使用電力量に占める割合(風力発電寄与率)は、年間約8.1%となっています。

#### ◎宮川公園



三浦市の南部に位置する宮川公園内には、平成9年3月から平成31年3月まで通商産業省(現経済産業省)資源エネルギー庁が「風力発電フィールドテスト事業」として風力発電設備を設置していました。三浦市のランドマーク的な景観として定着するとともに、風力発電設備を身近に感じられる公園でしたが、平成31年3月老朽化と部品調達の困難さから風力発電設備を撤去、当社が令和2年5月より再設置し、2基の風力発電設備を設置管理運営しています。



三浦宮川風力発電所

#### 宮川公園における風力発電の概要

|       |                     |     |
|-------|---------------------|-----|
| 設置者   | 株式会社 駒井ハルテック        |     |
| 設置場所  | 神奈川県三浦市三崎町六合(宮川公園内) |     |
| 用途    | 売電                  |     |
| 風力発電機 | 1号機                 | 2号機 |
| 定格出力  | 300kW × 2基          |     |
| 運転風速  | 3 ~ 25m/秒           |     |
| 稼働開始  | 2020年5月             |     |

#### 2023年度 宮川公園における風車による発電量(2基合計)

(単位:kWh)

|       | 4月      | 5月      | 6月     | 7月     | 8月     | 9月     | 10月    | 11月     | 12月    | 1月      | 2月      | 3月      | 合計        |
|-------|---------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|--------|---------|---------|---------|-----------|
| 1,2号機 | 148,327 | 103,769 | 41,954 | 61,718 | 54,511 | 83,801 | 70,884 | 105,175 | 74,249 | 113,095 | 149,086 | 128,160 | 1,134,729 |

## 太陽光発電

### ◎富津工場



鉄構加工棟並びに橋梁加工棟の屋根を利用してソーラーパネルを設置し、2022年10月から運転を開始しました。この電力は経済産業省の固定価格買取制度を使って東京電力に売電しています。2023年度の発電量は予測の2,313千kWhに対して2,541千kWhと予測以上の発電量となりました。



富津工場 ソーラーパネル

### 富津工場における太陽光発電の概要

|       |                      |
|-------|----------------------|
| 設置者   | 株式会社 駒井ハルテック         |
| 設置場所  | 千葉県富津市新富(駒井ハルテック内)   |
| 用途    | 売電                   |
| 設置面積  | 10,801m <sup>2</sup> |
| パネル面積 | 2,163m×1.030m        |
| パネル枚数 | 4,848枚               |
| 発電出力  | 1,974kW              |
| 稼働開始  | 2022年11月             |

### 2023年度 富津工場におけるソーラーパネルによる発電量

(単位:kWh)

| 4月      | 5月      | 6月      | 7月      | 8月      | 9月      | 10月     | 11月     | 12月     | 1月      | 2月      | 3月      | 合計        |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-----------|
| 263,230 | 288,780 | 250,440 | 320,030 | 276,270 | 222,580 | 196,060 | 132,240 | 119,780 | 140,610 | 146,180 | 185,074 | 2,541,274 |

### ◎スカイソーラー



大部分が山地である日本は平地部分が小さく、用途制限のない地域は極わずかです。そのために、多くの平面を要するメガソーラー事業に適する土地を確保しづらいのが現状です。中村勉総合計画事務所と当社は、現状の地形や土地利用を維持しながら、上空を活用するソーラー事業を提案します。

- ハイポール式スカイソーラー: 等間隔に設置したハイポールに梁を通し、ソーラーパネルを配置します。



所在地: 福島県 会津若松市

施主: 富士電機株式会社

形式: 上空ソーラー発電システム(1.3MW)

特記事項: ハイポール型太陽光発電設備架台の設計、製作、基礎工事、据付を実施。また積雪対策として融雪設備設置工事を実施。

- ケーブル式スカイソーラー: ハイポールに張ったケーブルに、ソーラーパネルを配置した吊構造です。



2015年8月から2016年6月まで富津工場にて実証試験をし、安全性が確認されたため、松戸テクニカルセンターに移設して、商業運転(売電)を開始しました。

所在地: 千葉県 松戸市

形式: 上空ソーラー発電システム(14.5kW)

支柱間: 22.4m、支柱高: 4.5m

特記事項: ケーブル懸架型空中太陽光発電装置を開発(特許取得)

### 2023年度 テクニカルセンターにおけるソーラーパネルによる発電量

(単位:kWh)

| 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    | 10月 | 11月 | 12月 | 1月  | 2月    | 3月    | 合計     |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-----|-----|-----|-------|-------|--------|
| 1,010 | 1,107 | 1,114 | 1,215 | 1,505 | 1,173 | 892 | 841 | 782 | 782 | 1,031 | 1,339 | 12,791 |

For more information, visit our **NEW** website!!!





## 温室効果ガス排出量の算出と削減



### TCFD 提言に基づく情報開示

当社グループは、気候変動問題への取り組みを推進するために、2023年3月にTCFD提言への賛同を表明し、8月には提言に基づく情報開示を行いました。

#### ◎ガバナンス

取締役会において経営戦略等に関して審議を行う際、必要に応じ、気候変動問題に関連したリスクや機会を踏まえたうえで、意思決定を行っております。

また、代表取締役社長を委員長、取締役・執行役員を委員とする「サステナビリティ委員会」を設置し、サステナビリティに関する取り組みを推進しております。

#### ◎戦略

気候変動が当社グループの事業、戦略、財務に及ぼす影響の評価及びそれらに対する対応策を検討するため、気候変動がもたらすと思われるリスク・機会を幅広く洗い出し、対応策を検討しております。

#### ◎リスク管理

サステナビリティ委員会にて気候変動問題について議論を行い、その結果は、取締役会に報告されると共に、経営リスク管理委員会においてリスク状況の評価モニタリングが行われ、取締役会を通じてサステナビリティ委員会にフィードバックされます。

#### ◎指標と目標

現在、2050年温室効果ガス排出ネットゼロに向けて、具体的な施策を検討しております。また、サプライチェーンを含めた排出量(Scope3)に対しても、顧客や仕入れ先と協力して削減に努めてまいります。

◆詳細は当社 HP の IR 情報より、

[「TCFD 提言に基づく情報開示のお知らせ」\(2023/8/10\)](#)をご覧ください。





## 温室効果ガス排出量の算出

当社では2012年度より、工場、事務所からのエネルギー由来の温室効果ガス(CO<sub>2</sub>)排出量の算出を行ってきましたが、2019年度からはその範囲をKHグループ全体(駒井ハルテック、東北鉄骨橋梁、KHファシリテック)に広げ、さらに2021年度からはサプライチェーンを含めたScope1~3排出量の算出を行っています。

また、2023年8月にはScope1+2排出量について、2030年度に2021年度比46%削減という中間目標を設定し、2050年度のカーボンニュートラル達成に向けて取り組んでいます。

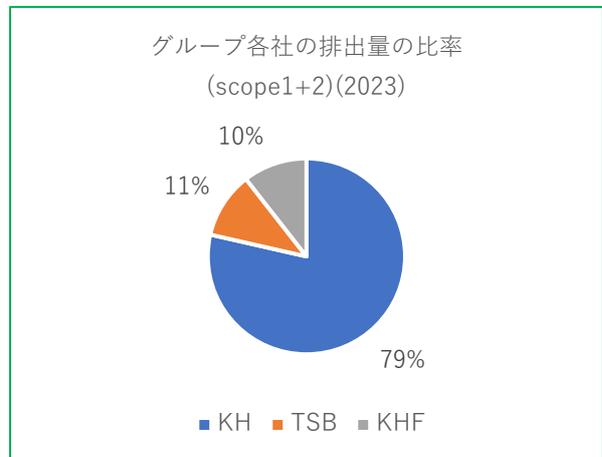
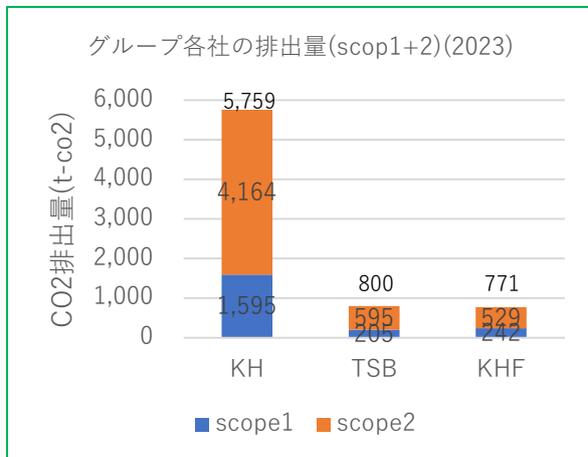
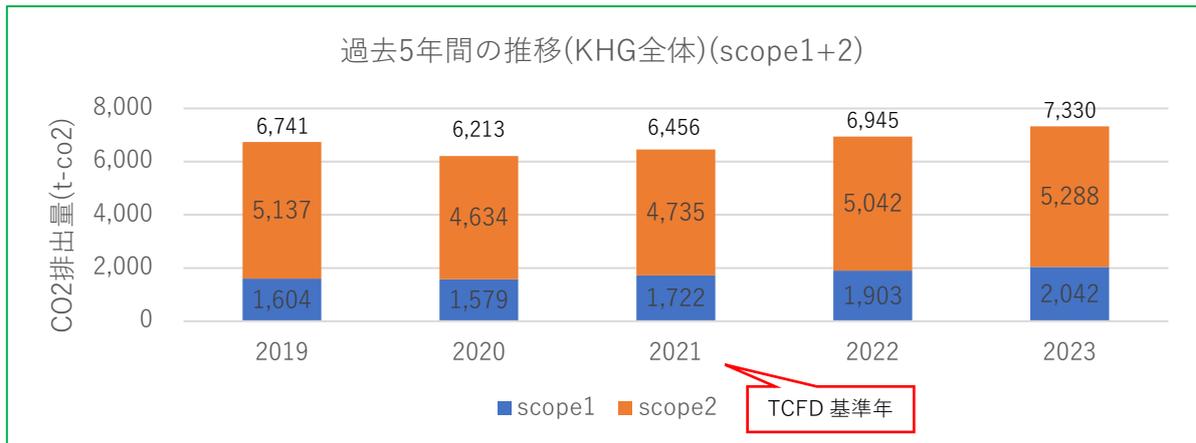
### KHグループのCO<sub>2</sub>排出量 (t-co<sub>2</sub>)

| 年度          | 2019  | 2020  | 2021    | 2022    | 2023(速報値) |
|-------------|-------|-------|---------|---------|-----------|
| Scope1      | 1,604 | 1,579 | 1,722   | 1,903   | 2,042     |
| Scope2      | 5,137 | 4,634 | 4,735   | 5,042   | 5,288     |
| Scope1+2    | 6,741 | 6,213 | 6,456   | 6,945   | 7,330     |
| Scope3      | —     | —     | 106,523 | 135,776 | 159,506   |
| Scope1~3 合計 | —     | —     | 112,979 | 142,721 | 166,836   |

※ KHFは2020.4にグループ会社となったため2020年度以降のみ計上としています。

※ 2020年度以前は橋梁現場からの排出量は含まれていません。

※ 2023年度は速報値。



注) KH:駒井ハルテック TSB:東北鉄骨橋梁 KHF:KHファシリテック



## 環境活動報告





## 環境との調和



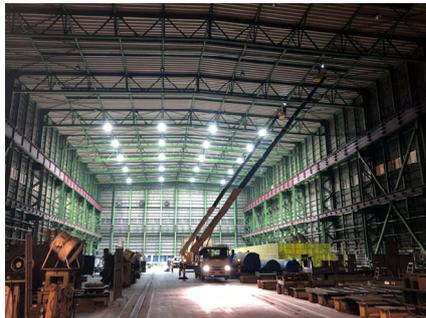
### 富津工場



富津工場では、照明のLED 化工事を進めるなど、エネルギー使用量の削減に取り組みました。社有車として電気自動車を導入し、CO<sub>2</sub>排出量削減に取り組んでいます。地域貢献として、富里南小学校の皆様到场内で製作しているビル鉄骨、鋼製橋梁、並びに、場内設置の風車・太陽光発電設備についてお話ししました。社員の自主的活動として社内ボランティアを集い、富津市の海岸を3ヶ月に1回のペースで清掃しました。この活動は、地域の海岸清掃ボランティア団体とコラボレーションして、社員およびその家族も交えた活動に発展しています。



EV 社用車



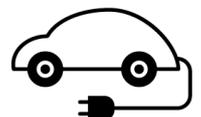
照明のLED 化工事



工場見学: 富里南小学校



富津海岸清掃





## 和歌山工場



和歌山工場では、地区清掃や古紙回収運動に参加しています。また、例年のグリーンカーテン設置の他、コロナ禍で中止されていた衣奈祭に有志社員が参加し、地元との親睦を深めました。



地区清掃



事務所グリーンカーテン



古紙回収：由良中学校



衣奈祭



## 東京本社



本社では、台東区の清掃活動「大江戸清掃隊」に登録しています。大江戸清掃隊の一員として、毎月第3水曜日に社員持ち回りで清掃活動を実施し、「ごみゼロキャンペーン」にも参加しました。また、紙類のリサイクルの徹底に努め、廃棄物の削減に取り組んでいます。環境省の呼びかけで始めた「CO<sub>2</sub>削減／ライトダウンキャンペーン」は、自主的に継続実施しました。



ごみゼロキャンペーン

## 大阪本店



本店では、脱炭素経営宣言(中小事業者を含めたあらゆる事業者の脱炭素化を支援・促進するため、大阪府が創設した制度)の登録をしました。

また、環境省の呼びかけで始めた「CO<sub>2</sub>削減/ライトダウンキャンペーン」を自主的に継続実施しています。



ライトダウン



## 大阪事業所



大阪事業所では、大阪市主催の「大阪マラソン“クリーンUP”作戦」に参加し、周辺歩道部の美化活動に取り組みました。また、グリーンカーテンを設置し、撤去時に周辺歩道部の美化活動に取り組みました。環境省の呼びかけで始めた「CO<sub>2</sub>削減/ライトダウンキャンペーン」も自主的に継続しています。



ライトダウン



“クリーンUP”作戦



グリーンカーテン

また、大阪本店、大阪事業所、和歌山工場は、運動の趣旨に賛同し「関西エコオフィス宣言事業所」に登録しています。



### ※「関西エコオフィス運動」

京都議定書を生んだ京都を有する関西が、全国に先駆け、地域全体が一致協力して、地球温暖化対策に取り組むことが責務であるとの認識のもと、身近なところからの省エネルギー等の取組みを実施する事業所(オフィス)を募集し、地球温暖化防止活動の裾野を広げていく運動。





## 東北営業所(仙台)



東北営業所では、「名取中央高架橋上部工(床版工)工事」(宮城県仙台土木事務所)の完成後、2017年より「みやぎスマイルロード・プログラム」に参加し、スマイルサポーターとして名取中央高架橋の清掃活動に取り組んでいます(4回/年)。また、地域貢献として広瀬川1万人プロジェクトに協賛しており、2016年より広瀬川の清掃活動に取り組んでいます。(2回/年)



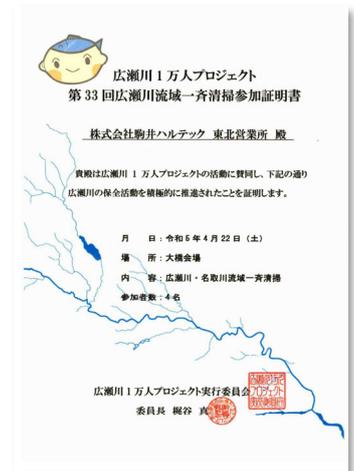
名取中央高架橋清掃活動



スマイルサポーター功績者表彰式



広瀬川清掃活動







## 橋梁建設（架設）現場での環境に対する取組



### 安全・環境パトロール



橋梁架設現場は、都心部、市街地はもちろん山間部、渡河部、海岸付近など自然と共存する場所での作業も多いことから、環境保全に対して細心の注意を払って作業を進める必要があります。

当社では、作業環境の安全性並びに周辺環境への対応の適切性の確認、現場作業従事者の安全意識の高揚を目的に、建設現場関係者（現場責任者、協力会社、店社管理者、安全品質管理部）が相互に連携し、安全・環境パトロールを毎月、全稼働現場にて実施しています。

2023 年度も、建設現場における作業環境（騒音・振動、水質汚濁、産業廃棄物、現場特有の環境側面等）に重点を置いて、全国に点在する現場のパトロールを実施しました。

遠隔臨場システムを使用することにより交通移動を減らし、環境への負担を軽減することに努めています。



パトロール風景



### 環境に対する個別取組



#### ◎騒音・振動対策、排出ガス対策

建設現場の騒音や振動の低減・防止、建設機械からの排出ガス規制の順守を図るため、低騒音・低振動タイプ、排出ガス規制適合の建設機器、重機などを選定しています。また、車両等の待機時の排出ガス抑制のために、アイドリングストップを推奨、指導しています。



オフロード法（特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律）適合表示

オフロード法は、建設機械等のオフロード車※の排出ガスを規制するため、2006年4月1日に施行されました。施行日以降に製作された新型車は、排出ガス基準を満たす基準適合表示を付したものでなければ国内では使用できません。

※オフロード車：公道を走行しないバックホウ、フォークリフト、ブルドーザー等の特定特殊自動車のことをいいます。



第3次排出ガス対策型建設機械指定制度表示(可搬式建設機械の表示)  
 オフロード法又は道路運送車両法により排出ガス規制を受けていない建設機械(発動発電機、小型バックホウ等)  
 メーカーから申請、国土交通省が指定後、表示が可能。  
 第3次排出ガス対策型建設機械指定制度で定められた技術基準を満たす。



超低騒音型建設機械表示  
 「低騒音・低振動型建設機械の指定に関する規程」(平成9年建設省告示第1536号)の騒音基準値から6dB減じた値を下回る騒音の測定値を得た建設機械。



燃費基準達成建設機械認定表示(100%以上達成)  
 「燃費基準達成建設機械の認定に関する規程」に基づき、建設機械から排出されるCO<sub>2</sub>の削減のための燃費性能の優れた建設機械を認定し、この建設機械の使用を普及促進するもの。



◎騒音対策

周辺環境への配慮のため、「防音パネル」の設置や、「エコバリア」によるクレーンの防音対策法の提案などを実施しています。



防音パネル



エコバリア



通常、橋梁現場では、橋梁構造の形状確保の為に、ドリフトピンを打ち込みますが、この時に用いるハンマーの衝撃音が騒音になります。騒音への配慮が必要な現場では、この騒音対策としてドリフトピン(セフティピン)を油圧で挿入することで衝撃音を発生させない低騒音用架設機材油圧式ピン挿入機スピードセッターを使用しています。



低騒音用架設機材油圧式ピン挿入機スピードセッター



### ◎R アンカー (抜取り可能なアンカーボルト)

「R アンカー」を採用することで、使用後のアンカーボルトを既設コンクリート構造物内部に異物として残さず、完全に撤去することができるため、既設コンクリート構造物の持続可能性の向上に寄与しています。



### ◎振動対策(「GMD 工法」)

「GMD 工法」は、地表面上におもり(写真朱色鋼材)を置くだけで近隣に伝わる工事の振動を低減する振動対策工法です。廃土が出ないため環境負荷が極めて小さい振動対策でもあります。また、振動と同時に騒音への配所も必要な現場では騒音対策として、「GMD 工法」を基礎代わりにして、防音アフィラウォールを設置しました。



施工前確認状況



防音アフィラウォール設置



### ◎水質汚濁防止

海、河川付近の橋梁建設現場では、油漏れ等による海、河川等の汚染を防止するため、建設機器、重機などの日常点検・整備を実施するとともに、オイル漏れ防止機能のある発電機を使用するなど、水質汚濁の防止を図っています。また、緊急時に備えてオイル吸着マット等を常備し、作業者に周知しています。



油吸着マット



オイルフェンス一体型発電機



### ◎ソーラーハウス

太陽光の自然エネルギーでCO<sub>2</sub>が発生せず、発電機のような騒音もないため、環境にやさしいエコロジーなハウスを採用しました。



### ◎産業廃棄物の分別

建設現場より発生する廃棄物は、廃棄物の種類ごとに分別収集を徹底することで、廃棄量の削減とゴミの再資源化に努めています。





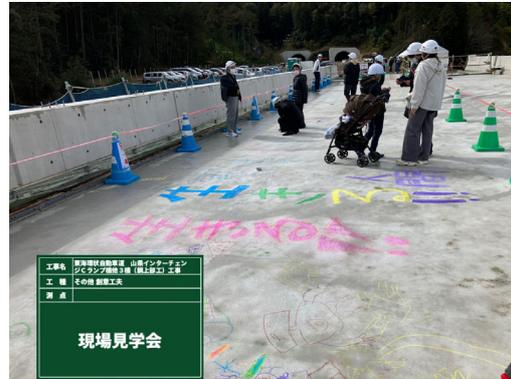
## 橋梁現場における地元交流



施工現場各地で工事見学会を開催し、地域との交流を図るとともに、施工内容への理解を深めていただいています。



国道 121 号 6 号橋 国交省現場見学会



山県 IC 橋 現場見学会



手代木橋 手代木南小学校現場見学会



手代木橋 深川第五中学校職業訓練





## 温室効果ガス排出量と使用エネルギー量の推移

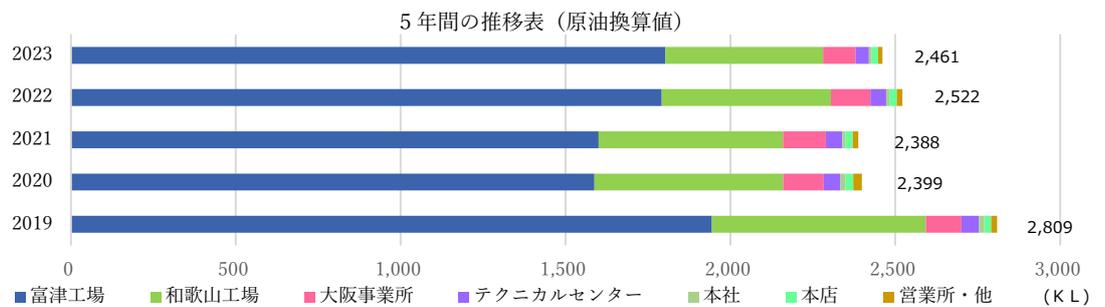
当社は、気候変動の原因となるCO<sub>2</sub>排出量の削減のため、省エネルギー活動に積極的に取り組んでいます。新たに2030年度CO<sub>2</sub>排出量46%削減、2050年度カーボンニュートラルという目標を掲げ、達成に向けた施策の検討を重ねております。



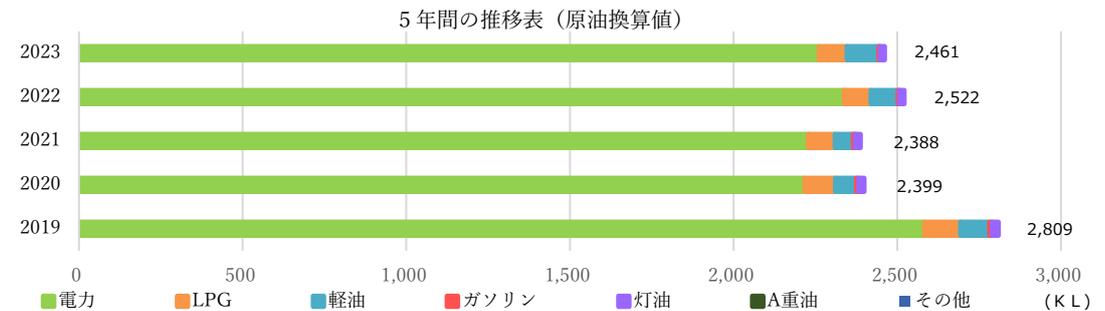
### CO<sub>2</sub>排出量の推移



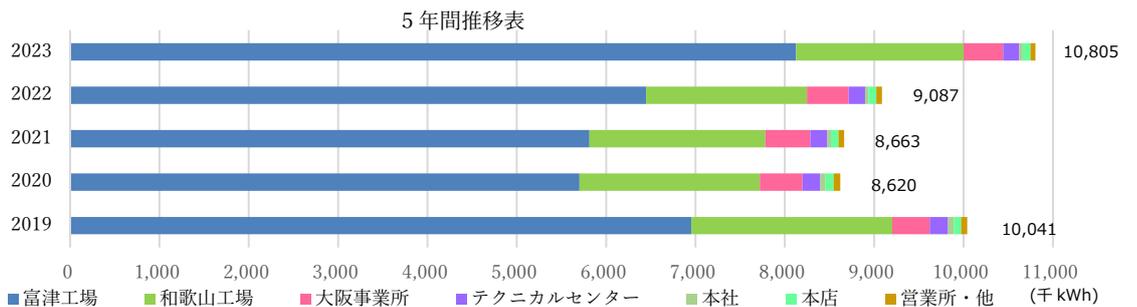
### エネルギー使用量(原油換算値)の推移



### エネルギーの種類(原油換算値)の推移



### 電力使用量の推移(2023年度より自家風力発電による電力を含む)



※ 今年度報告より「改正省エネ法」の内容に沿った集計としています。



当社は環境負荷低減を追求し、エコプロダクツ（環境配慮型製品）の開発に取り組んでいます。



### パイプスラブ（鋼コンクリート合成床版）

NETIS 番号:KK-040071-V(2017.4.20 掲載期間終了)

パイプスラブは、リブ（孔明き鋼板）とパイプ（構造用鋼管）とで構成された鋼板パネルがコンクリートと一体化することにより、大きな耐荷力と高い耐久性を実現した「鋼コンクリート合成床版」です。

「安（安全、安心）」「新（新技術、新発想）」「短（短工期）」による建設コスト縮減も特徴ですが、その高耐久性ゆえの長寿命化により、架け替えなどの更新期間の長期化が可能となり、施工に係る環境負荷が低減できるという利点があります。

※ パイプスラブは、日本ファブテック㈱、㈱IHIインフラシステムおよび当社の3社による共同開発商品です。



### Rアンカー（抜取り可能なアンカーボルト）

NETIS 登録:KT-180026-A

橋梁工事では、仮設部材などを既設コンクリート構造物に固定するために、仮設アンカーボルトを埋め込むことが多くあります。一般に、仮設アンカーボルトは完全に撤去することが困難で、コンクリート構造物内部に異物として残ってしまう問題がありました。

「Rアンカー」は、アンカーボルトに特殊コーティングを施すことにより、使用後に完全に抜き取ることができるあと施工アンカーボルトです。「Rアンカー」はコンクリートに優しく、既設インフラ構造物の持続可能性の向上に寄与できる製品です。



### アロンブルコート® Z-X、Z-Y工法

NETIS 登録:CB-120013-VR(2023.3.31 掲載期間終了)

「アロンブルコート® Z-X、Z-Y工法」は、アクリルゴムを用いてコンクリート表面の剥落・劣化を防止する「コンクリート表面保護工法」で以下のような特長があります。

■「環境に優しい」

有機溶剤を一切含まないオール水系材料です。

■「コンクリートに優しい」

水蒸気透過性を従来以上に高め、コンクリート内部に残留している水分の発散を妨げません。

■「メンテナンスが容易」

既設塗面を剥ぎ取ることなく、重ね塗りが可能です。  
（剥ぎ取りの廃棄物を出さないことで ECO を実現）

■「安価」

塗り重ね回数は4回とし、施工面での経済的な優位性を実現しています。

※「アロンブルコート®Z-X、Z-Y工法」は、東亜合成㈱と当社の共同開発商品です。





主要事業所（サイト）における環境マネジメントシステムへの取組

・富津工場

| 部門項目   | 具体的施策  | 結果  |
|--|--|---|
| 1. 環境負荷低減<br>・電気使用量管理と低減<br>原単位△2%/前々年度<br>・環境MS、ESG、SDGs活動                      | ・計画生産量、計画時間管理の強化によるエネルギー使用効率の向上<br>・照明 LED 化工事<br>・場内エアコン、単身寮 EV 更新<br>・工程管理による作業時間の無駄削減<br>・デマンド計設置計画<br>・不具合削減活動 | ・原単位 前々年度比 +23.53% 更なる省エネ設備の導入を検討中。大電流溶接施工対応、生産性向上による電気使用効率向上を目指す。<br>・フロン排出抑制法に基づく簡易点検、定期点検実施<br>・事務所棟、橋梁加工棟の照明 LED 化工事完了  |
| 2. 環境側面管理(サイト環境側面管理表の履行管理)<br>・3R(リデュース、リユース、リサイクル)活動の継続と履行管理<br>・省エネ小委員会活動継続と検証 | ・各部取組状況報告と富津工場のエネルギー使用状況展開<br>・低濃度 PCB 廃棄物調査の実施  | ・省エネ小委員会 計4回(6月、9月、12月、3月)開催<br>・低濃度 PCB 廃棄物調査完了、処理業者と処理作業調整中   |
| 3. 温室効果ガス排出量の算定(精度向上)と削減検討(TCFD への取り組み)<br>・排出量把握と算定<br>・再エネ導入の検討                | ・排出量削減への取り組み、再エネ導入検討<br>・操業時間当たりの炭酸ガス排出量削減に向けた生産性向上<br>・富津市温暖化対策ヒアリング参加  | ・社有車の電気自動車化の実施(2台導入)<br>・地球温暖化対策実行計画策定事業者ヒアリングに協力(9月)<br>・千葉県港湾脱炭素化アンケート協力(9月)  |
| 4. 産業廃棄物排出量の削減目標値設定<br>・産業廃棄物発生量を生産量の1%以内に抑える                                    | ・小集団活動の継続(消耗品在庫情報の共有化)   | ・産業廃棄物発生量 生産量の1.86%<br>場内各棟、屋外ヤードの長期保管部材廃棄で増加に転じたが、製品スクラップはゼロ。  |
| 5. ごみ減量(リデュース)の目標値設定<br>・古紙等の再利用   | ・タブレットを用いた会議システムの活用によるペーパーレスの継続  | ・コピー費の削減  |
| 6. 地域貢献活動(地域交流、近隣清掃など)<br>・ボランティア活動の実施<br>・工場周辺の清掃活動<br>・富津市への貢献活動<br>・自治会活動参加   | ・富津岬(下洲海岸)清掃活動への参加<br>・ベトナム語習得を目指す日本人との会話ボランティア参加<br>・富津ふるさと祭り参加<br>・富里南小学校社会科見学受け入れ<br>・新富工場協議会を通じて能登半島地震見舞金寄附    | ・工場周辺清掃 11/7 実施<br>・海岸清掃活動をボランティア団体と実施(4回/年)<br>・富津ふるさと祭り協賛(新富津工場協議会参加)<br>・外国語ボランティア参加(3名)<br>・富津市立図書館入口脇に寄附銘板掲示(4月)<br>・小学生、教員合計 66名社会科見学会受け入れ(12/14開催)<br>・能登半島地震見舞金寄附 |

・和歌山工場

| 部門項目  | 具体的施策  | 結果  |
|---|--|---|
| 1. 環境負荷の低減<br>・小委員会主導による意識向上・理解<br>・各エネルギー使用量の管理・削減<br>原単位 $\Delta 2\%$ / 前々年度                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・パトロールによる改善</li> <li>・無駄時間・工場費の削減意識によるエネルギー使用量減</li> <li>・エア漏れ対策としてバルブ交換・配管修繕</li> <li>・生産性向上機器、治具導入</li> <li>・工場棟側面、屋外、場内中段照明 LED 化</li> <li>・関西電気保安協会 OB 就労により電気削減活動を開始</li> <li>・トイレ人感センサー設置</li> <li>・プレーナー水素切断デモ</li> <li>・グリーンカーテン設置</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・原単位 前々年度比 <math>\Delta 10.6\%</math></li> <li>・常時未使用電源変圧器の電源開放実施、溶接電源管理による未使用の待機電力削減、インバーター自動制御溶接電源 2 台購入により電気使用量 20%削減</li> </ul>                        |
| 2. 環境側面管理(サイト環境側面管理表の履行管理)<br>・管理項目の履行と効果検証<br>*ピーク電力対策<br>*分別回収強化<br>*省エネパトロール実施<br>*グリーン購入・再利用<br>*不具合削減への取組み | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小委員会にて分別回収の報告、啓蒙</li> <li>・省エネ小委員会等で報告、啓蒙</li> <li>・業務課、製造課中心にエコ商品の選別購入、社内一括購入実施</li> <li>・不具合削減について材手前検討会、工作会議等で対応</li> <li>・低濃度 PCB 調査</li> <li>・配管更新</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月に一度のみピーク電力超過空調機自動制御実施にて対策を調整</li> <li>・分別回収について啓蒙・指導・パトロール監視</li> <li>・省エネパトロールを定期に実施</li> <li>・エコ商品購入実施</li> <li>・不具合削減について各種会議、管理職パトにて取組実施</li> </ul> |
| 4. 産業廃棄物排出量の削減目標値設定 前年比 $\Delta 5\%$<br>・スクラップ移行の継続<br>・スクラップ化検討  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラスチックパレットを再生材料に変更(処分については、有価物契約を実施)</li> <li>・バッテリー有価物化</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年比 <math>\Delta 8\%</math></li> <li>・原寸フィルム使用量 30%減</li> </ul>   |
| 5. ごみ減量(リデュース)の目標値設定<br>・電子化の推進<br>・古紙回収  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種回覧、配布資料、申請書類、作業管理シートの電子化</li> <li>・古紙回収について小委員会にて報告、削減への意識付けと取組実施</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業管理シートの電子化</li> <li>・排出量(カサ)の削減を取組実施</li> </ul>  |
| 6. 地域貢献活動(地域交流、近隣清掃など)<br>・古紙回収協力<br>・地域清掃活動への参加<br>・地域交流   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・由良町古紙回収協力</li> <li>・吹井地区清掃</li> <li>・地域活性化 WG 開催</li> <li>・由良中学校職業体験</li> <li>・有田中央高校工場見学</li> <li>・祭り等への参加</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・由良中学校の古紙回収協力実施</li> <li>・吹井地区清掃 5/28 実施</li> <li>・衣奈祭参加(10名)</li> </ul>   |

・本社

| 部門項目   | 具体的施策  | 結果  |
|--|--|---|
| 1. 環境負荷の低減<br>・原単位 $\Delta 2\%$ / 前々年度<br>・エネルギー使用量、活動量の把握、分析<br>・従業員の節電意識の向上<br>・空調使用の削減<br>・ドレスコードフリーの実施 | ・ガルーン・朝礼による啓蒙活動<br>*省エネ小委員会のアナウンス<br>*空調機使用状況の把握<br>・ドレスコードフリーの実施<br>・毎月第3水曜日をNO残業DAYに設定 | ・原単位 前々年度比 $\Delta 0.54\%$<br>時間外労働管理を強化し、改善を図る。<br>・ライトダウン 6/21、7/7 実施 |
| 2. 環境側面管理(サイト環境側面管理表の履行管理)<br>・電気使用・廃棄物の状況把握<br>・増減の要因分析<br>・電気使用・廃棄物の状況とその分析結果のサイト内フィードバック                | ・省エネ小委員会での使用状況の確認<br>・ガルーン・朝礼による結果報告   | ・電気使用・廃棄物の状況とその分析結果のサイト内周知実施  |
| 5. ごみ減量(リデュース)の目標値設定 $\Delta 1\%$ / 前年度<br>・廃棄物削減意識の向上<br>・紙類のリサイクル徹底                                      | ・ガルーン・朝礼による啓蒙活動<br>*昨年度比廃棄物(特に紙ごみ)超過、目標未達をアナウンスし、注意喚起<br>・シュレッダーごみ袋数の管理                  | ・前年度比 $\Delta 10\%$ (369kg 削減)  |
| 6. 地域貢献活動(地域交流、近隣清掃など)<br>・地域の清掃活動へ参加  | ・台東区の清掃活動「大江戸清掃隊」へ参加   | ・毎月第3水曜日に社員持ち回りで活動実施(全12回)<br>・台東区ごみゼロキャンペーン 5/28 参加                    |

・本店

| 部門項目   | 具体的施策   | 結果  |
|--|---|---|
| 1. 環境負荷の低減<br>・電力使用量の低減<br>・原単位 $\Delta 2\%$ / 前々年度<br>・エネルギー使用量の記録<br>・関西エコオフィス宣言                       | ・換気をしながら室温 $28^{\circ}\text{C}$ (夏期)、 $20^{\circ}\text{C}$ (冬期)を基準に対応<br>・エネルギー量、活動量の把握 | ・原単位 前々年度比 $+0.45\%$<br>・省エネ活動の継続<br>・ライトダウン 6/21、7/7 実施<br>・関西エコオフィス宣言取組継続 |
| 2. 環境側面管理(サイト環境側面管理表の履行管理)<br>・「リフューズ」<br>*備品余剰購入の防止<br>・「リユース」<br>*パイプファイルの再利用<br>・「リサイクル」<br>*ゴミの分別を徹底 | ・カウント量記録による監視、ペーパーレス化への取組を各職場で検討・実施<br>・テナントビルの清掃方針に合わせたゴミの分別徹底<br>・文具の環境製品の選択          | ・OA紙の消費量、購入量減少<br>・パイプファイル新規購入なし<br>・ゴミの分別順守                                |
| 3. 温室効果ガス排出量の算定(精度向上)と削減検討(TCFDへの取り組み)<br>・大阪府脱炭素経営宣言  | ・大阪府脱炭素経営宣言の登録申請  | ・当社が実施中の施策にて大阪府脱炭素経営宣言に登録(3/15 申請受理)  |
| 5. ごみ減量(リデュース)の目標値設定<br>・OA紙等廃棄量の計測開始  | ・OA紙等廃棄量の記録およびグラフ化開始  | ・テナントビルよりOA紙等廃棄量の数値(Kg)受領、記録  |
| 6. 地域貢献活動(地域交流、近隣清掃など)<br>・大阪地域貢献企業バンク   | ・大阪地域貢献企業バンクの登録継続   | ・地域貢献企業バンク登録企業として大阪市ホームページに掲載中  |

・大阪事業所

| 部門項目  | 具体的施策  | 結果   |
|---|--|--|
| 1. 環境負荷の低減<br>・電気使用量の管理と低減<br>・原単位 $\Delta 2\%$ / 前々年度<br>・年間を通してのエネルギー使用量、活動量の把握<br>・ライトダウンキャンペーンの実施 | ・省エネ小委員会でエネルギー使用量と生産動向監視<br>・毎月のエネルギー使用量、活動量の把握、報告と監視<br>・電気使用量の動態管理<br>・グリーンカーテンの設置 | ・原単位 前々年度比 $+52.42\%$<br>電力の使用量は大きく減少しているが、同様に工場時間数も減少しているため、原油換算値の改善が一定程度に留まった。(原油換算値 約 $12\%$ 改善、工場時間数 約 $57\%$ 減少)<br>・ライトダウン 6/21、7/7 実施<br>・グリーンカーテン 4/28 設置、11/22 撤去 |
| 2. 環境側面管理(サイト環境側面管理表の履行管理)<br>・3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進と履行管理   | ・省エネパトロールの実施<br>・リサイクル量の把握   | ・省エネパトロール実施(6回)<br>・消防避難訓練 6/29 実施   |
| 4. 産業廃棄物排出量の削減目標値設定 前年度比 $\Delta 1\%$   | ・廃棄物の分別方法の見直し  | ・前年度比 $+252\%$<br>ブレード工場、ブレード塗装場の解体工事に伴い大幅に増加。   |
| 5. ごみ減量(リデュース)の目標値設定<br>・廃棄物の削減量の把握   | ・廃紙、廃棄物の動態管理   | ・大阪市環境局より令和 5 年度のごみ減量優良建築物と認定  |
| 6. 地域貢献活動(地域交流、近隣清掃など)<br>・清掃活動   | ・グリーンカーテン撤去時の歩道部美化活動<br>・大阪マラソン“クリーン UP”作戦への参加                                       | ・グリーンカーテン撤去、歩道部の美化活動 11/22 実施<br>・大阪マラソン“クリーン UP”作戦にて清掃活動 2/16 実施  |

・テクニカルセンター

| 部門項目   | 具体的施策   | 結果  |
|--|---|---|
| 1. 環境負荷の低減<br>・原単位 $\Delta 2\%$ / 前々年度<br>・電気使用量の管理、低減<br>・ライトダウンキャンペーン(環境省)継続                           | ・継続的啓蒙活動<br>・電気使用状況の報告(省エネ小委員会)<br>・不使用箇所の電源オフ<br>・ライトダウンキャンペーンの実施継続            | ・原単位 前々年度比 $\Delta 5.44\%$<br>・ライトダウン 7/7 実施                                    |
| 2. 環境側面管理(サイト環境側面管理表の履行管理)<br>・省エネ小委員会の実施<br>・省エネパトロールの実施<br>・防災防火訓練の実施<br>・BCP用発電機の試運転の実施               | ・省エネ小委員会により環境側面の展開周知<br>・各部署の環境パトロールを持ち回りで実施(毎月)                                | ・環境側面の理解<br>・削減意識の向上<br>・危機管理意識の向上<br>・消防訓練 11/13 実施<br>・発動発電機の使用訓練を持ち回りで実施(隔月) |
| 3. 温室効果ガス排出量の算定(精度向上)と削減検討(TCFD への取り組み)<br>・地球温暖化対策地域推進計画継続  | ・松戸市「まつど脱炭素社会推進事業所」の対象項目に沿って取り組み  | ・地球温暖化対策地域推進計画継続  |
| 5. ごみ減量(リデュース)の目標値設定<br>・タブレット導入によるペーパーレス化<br>・廃棄物の分別<br>・リサイクル量の把握、報告<br>・廃紙の有価物としての引き取り<br>・エコキャップ活動継続 | ・タブレット使用の推奨<br>・ゴミの分別、リサイクル量の報告(省エネ小委員会)<br>・廃コピーの状況報告(省エネ小委員会)<br>・エコキャップ回収・送付 | ・廃棄物の削減意識の向上<br>・各課にてエコキャップ活動実施中  |
| 6. 地域貢献活動(地域交流、近隣清掃など)<br>・職場見学・職場体験の受け入れ継続<br>・松戸TC周りの道路清掃  | ・松戸TC周りの道路清掃  | ・職場見学・職場体験の受け入れ要請無く未実施<br>・近隣清掃 1 回/年実施   |





## 会社概要





## 会社概要

|        |  |
|--------|--|
| 商 号    | 株式会社駒井ハルテック(英訳名 KOMAIHALTEC Inc.)  |
| 設 立    | 1883年(明治16年)創業   |
| 本社所在地  | 東京都台東区上野一丁目19番10号  |
| 従業員数   | 632名(2024年3月31日現在)(連結)   |
| 資本金    | 66億1,994万円(2024年3月31日現在)   |
| 株式上場   | 東京証券取引所 プライム市場   |
| 建設業許可  | 国土交通大臣 許可(特-3)第142号  |
| ISO 認証 | ISO9001, ISO14001  |
| 事業内容   | 【橋梁事業】橋梁の設計・製作及び現場架設、鋼橋の現場工事の施工及び維持補修<br>【鉄骨事業】鉄骨・鉄塔の設計・製作及び現場建方<br>【インフラ環境事業(再生可能エネルギー・海外インフラ事業)】<br>風力発電システム及び太陽光発電システムの設計、製作、施工 |
| 関連会社   | 【連結子会社】<br>東北鉄骨橋梁(株) ..... 鉄骨・橋梁<br>(株)シップス ..... 印刷・不動産<br>KHファシリテック(株) ..... 鉄骨・橋梁   |
| U R L  | <a href="https://www.komaihaltec.co.jp/">https://www.komaihaltec.co.jp/</a>  |





## (株)駒井ハルテック 事業所一覧

|           |                                  |                  |
|-----------|----------------------------------|------------------|
| 本社        | 〒110-8547 東京都台東区上野一丁目 19 番 10 号  | TEL 03(3833)5101 |
| 本店        | 〒550-0012 大阪市西区立売堀四丁目 2 番 21 号   | TEL 06(4391)0811 |
| 東北営業所     | 〒980-0014 仙台市青葉区本町二丁目 1 番 29 号   | TEL 022(227)8724 |
| 群馬営業所     | 〒370-0831 群馬県高崎市あら町 129 番 1 号    | TEL 027(384)4863 |
| 名古屋営業所    | 〒460-0003 名古屋市中区錦二丁目 20 番 8 号    | TEL 052(684)8121 |
| 和歌山営業所    | 〒649-1122 和歌山県日高郡由良町神谷 805 番 2 号 | TEL 0738(65)2841 |
| 中国営業所     | 〒730-0036 広島市中区袋町 5 番 38 号       | TEL 082(247)4838 |
| 九州営業所     | 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東二丁目 4 番 17 号 | TEL 092(441)3665 |
| 富津工場      | 〒293-0011 千葉県富津市新富 33 番 10 号     | TEL 0439(87)7470 |
| 和歌山工場     | 〒649-1122 和歌山県日高郡由良町神谷 805 番 2 号 | TEL 0738(65)1234 |
| 大阪事業所     | 〒555-0041 大阪市西淀川区中島二丁目 5 番 1 号   | TEL 06(6475)2111 |
| テクニカルセンター | 〒270-2214 千葉県松戸市松飛台 404 番 1 号    | TEL 047(387)0170 |



## 関連会社一覧

### 東北鉄骨橋梁(株)

|               |                                    |                  |
|---------------|------------------------------------|------------------|
| 【 本社 】        | 〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町二丁目 14 番 27 号 | TEL 022(221)7511 |
| 【 岩沼工場 】      | 〒989-2421 宮城県岩沼市下野郷字新関迎 230 番      | TEL 0223(22)1611 |
| (株)シップス       | 〒270-2214 千葉県松戸市松飛台 404 番 1 号      | TEL 047(384)5281 |
| KH ファシリテック(株) | 〒808-0027 福岡県北九州市若松区北湊町 9 番 27 号   | TEL 093(771)2368 |



**KOMAIHALTEC Inc.**

